

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2774001362		
法人名	有限会社 豊中オアシス		
事業所名	グループホーム桜塚オアシス		
所在地	大阪府豊中市南桜塚4丁目11-4		
自己評価作成日	平成30年6月24日	評価結果市町村受理日	平成30年9月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年7月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年も夏祭りを豊中オアシスと合同開催が出来ればと考えています。地域への貢献についてもこれまで以上に交流が持てばうれしく思います。地域のつながりを密に、また災害時にもお互いに協力できる環境を構築できればと考え、地域のお楽しみサロンにも参加させて頂いたりして地域の交流にも活かしています。小学校の行事にも参加したり施設内ばかりではなく、外にも行くように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、阪急宝塚線岡町駅から約1.1km東に位置し、近くに緑豊かな服部緑地公園、神社、保育園、小・中学校、コンビニ、商店街がある生活環境に恵まれた閑静な住宅地にある。開設から15年を経過しているが、この3～4年職員の退職が激しく課題であった。職員が補充され、更にこの6月に以前当事業所に在籍した年若い介護知識・経験豊富で包容力の有る新管理者が着任し、やっと落ち着きを取り戻している。新管理者は先ず新・旧職員の融和、運営方針のベクトル合わせ、積極性・自主性の涵養を徹底し、理念の「明るく、楽しい、家庭的な環境、利用者の能力に応じた自立支援」の実践に向けてリーダーシップを発揮している。また今まで不十分であった地域との交流の促進、地域貢献への取り組み強化、利用者の個別ケアの充実、特に日常的な外出支援の強化に全職員一丸となって取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の理念には「明るく楽しい生活環境」となっています。利用者様もそうですが、職員も笑っていなければ、利用者様からの笑顔はないと思うので挨拶から笑顔がみられるそんな気持ちのいい施設だね。と言ってもらえるようにしたいと考えます。	法人理念の「1、明るく、楽しい、家庭的な環境 2、安心、快適、尊厳の有る生活 3、入居者に応じた自立を支援」を事業所理念として玄関正面に掲示し、職員が率先して何時も笑顔で利用者に接して明るく楽しいホーム作りに努めている。	事業所開設から16年法人理念をそのまま掲げているが、事業所内・外の環境の変化と地域密着の要請を踏まえて、職員皆と事業所としての理念の検討・取り組みを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事を民生委員さんや介護相談員さんから情報を教えて頂き参加可能な限り利用者様と参加している	近隣町・区内に自治会はないが運営推進会議に出席の福祉・民生委員や介護相談委員からの情報で盆踊り・敬老会・お楽しみサロン等の地域行事に可能な利用者と共に参加して地域の人達と交流を図っている。	民生委員や介護相談員および事業所近くに住む職員の協力を得て、老人会や保育園、小・中学校との交流、事業所主催の夏祭・クリスマス会への招待、介護相談・認知症講座等を開催して地域交流を更に深める事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症のケアのプロとして活動していますので、地域の方にも色々と思えばと思っていますので、夏祭りを開催し、地域の方との交流の場になればと考えます		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は民生委員、地域包括、介護相談員、そして事業所の管理者、入居者様、家族様での開催になっていますので、2か月ごとの会議、研修その他色々な報告、また相談をさせて頂いています。地域の行事などはこのときに教えて頂いたりもしています	地域包括支援センター職員、福祉委員、民生委員と介護相談員の出席の下に、原則偶数月の第4水曜日に開催している。利用者・職員の状況、行事等事業所の現況を報告し、意見交換して運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設でも対応困難なことがあれば逆に施策課に相談させていただいたりできる環境作りは行っています。会議の議事録等を持っていくなど協力関係を維持できるように努めています	市の高齢施策課や支援課、生活福祉課と常に連絡を取り、相談・アドバイス・情報の提供を受けている。市主催で2～3ヶ月毎に開催されるグループホーム連絡会に参加して、研修を受けたり情報交換を行って行政および同業者との連携を取っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則的には身体拘束は行わないを明示しているので、センサーを導入し、利用者様がいつでも外に行きたいというサインが分かるようになっていきます。時間が許す限りで日向ぼっこなども行っています	例年定期的に行っている研修の他に、今年度から身体拘束等適正委員会を年4回開催が義務付けられ、今まで以上に拘束しないケアの徹底に取り組んでいる。利用者の玄関の出入りには見守りを重視し即応体制を取り、閉塞感を抱かせないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間計画の中にも今年度からは身体的拘束等適正化委員会を年4回、通常の研修も開催されているので、意識の確認や、注意、防止策についても随時職員と共有し、対応している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループ全体での会議の席で法律の専門家に来ていただき後見制度の研修をして頂きました。それを管理者が事業部で研修して職員への共有として利用しています。また利用者様の後見人の方がおられるので、何かあればアドバイスは頂ける環境があります		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様の都合に配慮し、優先して日時を設定し、十分に納得の上で契約して頂けるように努めています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの意見箱も玄関に準備はされていますが、なかなか記入されていることはありません。なので、面会時や連絡したときにお話する時間を少し頂き、会話の中から意見として反映できることはないかを見ています	利用者の意見・要望は日々の関わりの中で何気ない会話や表情・仕草から汲み取り、介護相談員の情報も参考にしている。家族は、訪問時に介護記録等を基に暮らし振りを説明して、意見・要望を丁寧に聞くようにしている。訪問の少ない家族には、電話やメール・手紙で連絡を取っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内会議は毎月設けています。その中で意見や提案をもらうようにしている、また年2回の管理者との面談も設けているので、不平、不満についてもあれば聞き取り可能な体制をとっているし、普段から何かあれば、相談という形で話てくださいと職員には伝えています	管理者が6月に交替したが、以前に在籍していたので職員は何時でも何でも相談・話し合える良好な関係にある。毎月の職員会議の他年2回の個人面談も実施している。最近も先の地震の被害修復や入浴日の変更と外出を増やす意見・提案が有り、取り組み中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの聞き取りや人事考課なども行い、職員個々のスキルアップについても、会社負担の研修にも参加できる体制が確立している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修であったり、施設内研修の充実、今後どんな研修を受けたいかなども聞き取りしながら年間予定に添って行っていきたいと思います		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列会社のGHが近隣に2つあるので、今年も夏祭りの声掛けをしながら、交流をもち、研修会や意見の交換の場、防災訓練の合同開催もしていければと思います		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談やサービスの利用時の様子を見させていただき、本人様の生活歴、趣味、生き甲斐等アセスメントし内容を十分理解し、共同生活が安心、安全に過ごせるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約、入居に至るまで、見学や相談等をさせていただき、家族様の不安や要望についても家族様の意向も確認し関係作りに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネ、相談員との情報交換を密にとり家族様、本人様を含め今後の生活に対応し、話し合う時間を持つようにしています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話等で得た情報はほかの職員とも共有しています。また、本人様を理解し個別ケアが充実できるよう申し送りノートを活用しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば、連絡、メール等でもやり取りしているので、色々な方法で報告、連絡、相談を行っています。面会時にも本人様の様子を報告しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の意向があって判断してもらっています。問題ない方であれば個人的にも面会に来られています。入居時に面会がダメな方がいるかも確認しています	友人・知人の訪問は徐々に少なくなって現在は数名であるが、家族の意向を確認して受け入れ、楽しく過ごして貰い、継続して訪問して貰うように支援している。家族が付き添って馴染みの美容院やスーパー・店に出かけたり、外食や墓参り、たまには帰宅するように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性は大事なので色々と考慮した配置を工夫しています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても家族様がお困りのときには気軽に連絡してくださいと説明しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望の意向を話しやすい状況をつくり時間をとって話を聞く事によって把握に努めている。家族や関係者、職員の意見を聞き本人の把握に努めている	入所時に聞き取って纏めたフェースシートによりその人の生活歴や趣味・特技・楽しみ事を職員皆で共有している。入所後は、職員が日々の関わりの中で新しい希望や意向の変化を見逃さず連絡ノート等書き留め、職員で話し合って日々のケアと次の介護計画に反映するようにしていく。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、その関係者より、生活歴や生活環境等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人と直接話すことによって心身の状況を確認したり、職員からの話、または申し送りノート介護記録を確認することによって現状把握に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況や家族、職員からの気づきや意見など情報収集を行い状況の変化時など、担当者介護を行い、その都度介護計画の見直し作成に努める	本人・家族の要望、アセスメントシート、介護経過記録、内科往診表等を基にケアマネジャーを中心に関係者がケアカンファレンスを開いて現状に即した本人本位の介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、見直しの要・否は3ヶ月毎に行い、状態の変化が有れば、医師と話し合って即変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいた点を個人の介護記録に記入し、職員間で情報を共有し気づいた点を実践し介護計画の見直し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に応じ美容院、買い物等など、本人の希望、要求に対応できるよう努めている。地域のイベントに参加している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに参加。相談員やボランティアの受け入れ等、地域の人の力を借りた取り組みをしています。(訪問美容院、往診、訪問歯科)一緒に買い物、公園等に行き地域の人々との交流を楽しむ		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様の意向に添いかかりつけの病院の継続、協力医療機関を受けて頂く場合は、本人様、家族様の同意を得て内科医の往診を受けています	本人・家族の希望を尊重してかかりつけ医を決めている。内科と歯科は現在全員が事業所の協力医の訪問診療を受診している。内科の訪問は毎日、歯科は週1回。看護師は週2回訪問し、体調管理に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関から毎週2回の訪問があり、健康相談等にも意見をいただいています。同じ看護師さんが来てくれているので、相談はしやすくなっています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は可能な限り面会や洗濯物を取りに行ったりしている。家族様からは病院からの情報を頂けるよう定期的に連絡も取るよう配慮しています。面会時には看護師や医療連携室の担当者とも話す機会をもち、早期退院に繋がるように努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における指針」「緊急時の対応」の文書を入居時に説明し、同意書を交わしています。GHでの可能な範囲を説明し、医療機関、家族様との連携を図りながら、対応しえる最大限まで支援に取り組んでいます	「重度化した場合における指針」に基づいて入所時に事業所で出来る範囲と支援体制について説明し、同意書を交わしている。高齢化・介護度の高まりに伴い本人・家族から看取りの要請が多くなっているため、準備・検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時応急処置、救急要請、緊急時の対応については細かなマニュアルがあるので、定期的に見直しと情報の共有と周知徹底をしていく		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、緊急時の避難経路の確認や整備を行っています。災害訓練も今年度から年間計画の中に組み込まれています	今年度から従来の年2回の消防・避難訓練のほかに地震や水害等を想定した訓練も年間計画に組み込んでいます。備蓄を計画である。(先日大阪北部地震で訓練の必要性を痛感)	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格の把握と配慮、プライバシーを尊重した声掛け介助を行っています。	定期的に接遇・プライバシー・人権に関する研修を行い、利用者を人生の先輩として尊敬し誇りやプライバシーを損ねない言葉使いと対応をするようにしている。個人情報に関わる書類は、鍵の掛かる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から本人様から思いや希望を聴きだし可能な限り思いが叶うよう支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設サービス計画書を基に一人ひとりのペースに合わせたその人らしい生活ができるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1階の訪問理美容にてカットや顔そり等、本人様の希望を伝えています。入浴時にも顔そりを行っており、爪切りは爪が伸びていたら都度行っています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事レクのときは包丁で切っていただいたり、盛り付けをしていただいたりしています。誕生日のときは個別に外食へ行っています	食事は、系列会社からクックチル方式で配達され食事担当者が解凍・温めて検食した後、形態を整えて提供している。ご飯と汁物は事業所で作っている。季節の行事食や誕生祝のケーキやオヤツを利用者も一緒に手作りして楽しんでいる。家族と一緒に外食にも出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を毎回記録し、個々の嗜好を把握して個別対応できるようにしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを徹底し、ご自分で出来る方へは声掛け、できない方は介助にて行っています。また、各週火曜日の訪問歯科医による口腔衛生管理を行っています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け誘導し支援しています。また、ベッド上での介助の方も排泄パターンを把握し同様に行っています	排泄記録表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、余裕をもってトイレへ誘導し、自立に向けた支援をしている。現在オムツ使用者は3名、布パンツ使用者は4名である。夜は安眠を重視し、殆どの方が4時間置きのパット交換である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を沢山飲んでいただいたり、歩ける方は歩行運動をして頂いていますが、便秘になった場合は往診医に相談し、薬を処方してもらっています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を増やし、1日の入浴人数を減らしゆっくりと入浴できるように工夫しています。また、一人ひとりに合わせた温度調節を行い対応しています	入浴は週2回が基本であるが、利用者の体調や希望によって柔軟に対応している。入浴を嫌がる場合は、時間や人を変えたり、清拭、足浴、シャワー浴で清潔を保つように支援している。季節のゆず湯や入浴剤を楽しむ支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、散歩に出かけたり、ビデオを観たり、唄ったりし、選択や掃除等のお手伝いで家にいるような生活、リラックスして眠れるよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内科往診の薬の変更については、申し送りノートに貼り出し職員が把握できるようにしています。他科受診で処方された薬も申し送りノートに書き把握できるようにしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物、掃除、テーブル拭き等無理強いせず、一人ひとりに合った役割を職員と一緒に楽しく行っています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は出来るだけ散歩に出かけたり、玄関先で日光浴、中庭でおやつを行っています。地域老人会の催しにも参加しています	天気の良い日は、近くの公園や神社、住宅街を散歩したり買い物を兼ねてスーパーやコープまで出掛けている。寒い冬でも玄関先や中庭での日光浴をして五感を刺激している。毎年春と秋には、バス旅行を実施、去年は天王寺動物園と箕面の勝尾寺の紅葉を楽しんだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	空の財布を預かり、外出時に施設現金をその財布に入れて買い物を楽しんでもらっています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が希望された場合、事前に家族様へ連絡を取り、その後職員がサポートして電話や手書きのやり取りを支援できるようにしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真ばかりなので季節の飾りで季節感を出せればと思います	50数年経過の建物は、今回の大阪北部地震で壁面こひびが入ったが被害は軽微で、壁紙での補修が施されている。リビングや廊下の壁面には行事写真が一杯張られ、利用者・家族の様子がよく分かり、居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂で過ごす時間が多いので、相性に考慮したテーブル席にしたり、廊下には長椅子を置いてくつろげる場所を提供しています。玄関先にもベンチがあるので有効に使用しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具を持ち込んでいる方もおられるので、居室内は個々の個性が出ており、本人様が安心してくつろげる空間を意識しています	各部屋には、押入れ、流し台、冷暖房設備、スプリンクラー、ナースコール等が設置されており、利用者は使い慣れたタンスや衣装ケース、テレビ、家族の写真等を持ち込んでこれまでの生活の継続性を維持している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや机等をうまく活用し、できる限り安全に移動可能になるよう工夫しています		